



# CLINICALPATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway  
日本クリニカルパス学会

No.  
37

発行日  
2017年3月10日

in 石川

## 第17回日本クリニカルパス学会 学術集会開催報告

2016.11.25 ~ 26

第17回学術集会 会長、石川県立中央病院  
久保 実

第17回日本クリニカルパス学会学術集会を2016年11月25日(金)・26日(土)に紅葉散り敷く初冬の金沢市の石川県立音楽堂とホテル日航金沢で開催いたしました。この時期は例年ですと初雪を経験し、みぞれ混じりの悪天候が多いのですが、前日の24日はむしろ太平洋側が大雪で日本海側が晴れて、北陸新幹線では雪国からトンネルを抜けて金沢に来ていただくことになりました。会期中も初日にはにわか雨も降りましたが、比較的穏やかな日に恵まれ安堵いたしました。

学術集会では、皆様から公募を含む11種のシンポジウム・パネルディスカッションをはじめ、140題の口演発表、310題のポスター発表、そして23題のパス展示と計500題を超える多数の応募をいただきました。参加者も2,500名を超え(有料入場者は2,379名)、盛会裏に開催できましたこと、会員の皆様にご挨拶申し上げます。

テーマは「患者さんに優しいクリニカルパス～エビデンスとナラティブの融合～」としました。クリニカルパスは治療計画を図面化し患者さんと共有するとともに、エビデンス(EBM)を重視することで無駄を省き、治療・ケアの標準化、業務改善・効率化を求め、在院期間の短縮や医



療資源の節約、経営効率の改善、医療の安全性の向上を図ってきました。しかし、その一方で、お年寄り、障がいや合併疾患のある患者さんにおいては必ずしも満足していただけない医療となったり、バリエーションが発生しやすくなっています。患者さんの状態と物語(ナラティブ)に配慮することで患者さんにやさしいパスとなると考えて

企画いたしました。ナラティブ・ベイスド・メディスン：NBDMについて斎藤清二先生(立命館大学 総合心理学部)に教育講演をお願いしました。また、患者さんに優しいパスのシンポジウムとして、①早期回復・早期離床、②インフォームド・コンセント、③超高齢化社会、④診療所の視点からの地域連携を企画いたしました。その他にもBOM、電子カルテ、地域連携、パス記録、多職種協働などを取り上げて討論いたしました。



久保 実先生

▶ 第17回日本クリニカルパス学会学術集会開催報告  
第17回日本クリニカルパス学会学術集会賞 最優秀賞を受賞して  
第3回クリニカルパスエキスパートミーティング報告

会長講演として「小児もパスを作ろう」をさせていただきました。小児ではパスが作りにくいと思われがちですが、最近では2/3の病院でパスが小児でも運用されています。これまで行ってきた「小児科もパスを作ろう」キャンペーンの内容をお示しし、小児関連科におけるパス導入・推進の問題点と対策について話させていただきました。また、小児でのNBMとして、プリパレーションや母乳育児についても触れさせていただきました。

特別講演1では、「金沢、文化のまちづくり」として、前金沢市長の山出 保様の市長として伝統文化と革新を融合させた文化都市金沢の町づくりにかけた熱い思いをお聞きいただきました。金太郎あめのような「観光都市」ではなく個性あふれた「文化都市」金沢を知っていただけたことと存じます。特別講演2では東京女子医科大学名誉教授の仁志田博司先生に「周産期の母と子の医療から学ぶ共に生きる心」を講演していただきました。新生児医療の目覚ましい発展の一方でいじめ、不登校など問題を抱える子どもが増加しています。命を救う、身体的障がいを少なくすることだけでは足りない、生まれて来る子どもに「やさしさの心」を育むことが必要だと説かれました。

特別企画として「さまざまな視点から見た医療の「質」」も企画しました。医療の質は社会的にも大きな関心事で、高齢化や慢性疾患患者の増加、医療の複雑化や侵襲性の高い医療技術の導入、医療情報伝達・共有の問題など多様です。医療の質評価の概念、患者の目から見た医療の質、継続的質改善（TQM）、地域としての健康の確保を取り上げ議論いたしました。

その他の主なプログラムとして、理事長講演『クリニカルパスとビッグデータ～現状と活用そして未来を考える～』副島秀久先生（済生会熊本病院 院長）、招待講演『医療事故調査制度の意義と現状』西澤寛俊先生（全日本病院協会）、教育講演『「超」高額抗がん剤のインパクト』濃沼信夫先生（東北医科薬科大学）、シンポジウム『BOM導入の実際』、『どうする？どうなる？地域連携パス』、『ベンダーが考える電子パスの標準化とは？～ベンダーと一緒に、何が課題で、どうすれば実現できるのか？を語ろう～』、パネルディスカッション『パスの記録と職種の記録～統合できるか？分けるべきか？～』、『パスにおける多職種協働～それぞれの専門職の立場からパスにどのように関わっているか～』、『パスデータの有効活用～集めればなしじゃもったいない！～』、『生まれ！パス専任者～おおいに語ろう、パス専任の役割と悩み～』などが行われました。

金沢らしいおもてなしにもこだわりました。音楽堂自慢のパイプオルガンによるコンサートで疲れを癒して午後のプログラムに臨み、懇親会では金沢市の無形文化財：素囃



子、石川県の海の幸山の幸、おいしい日本酒などを楽しんでいただきました。金沢の特徴は比較的狭い地域に数多くの文化財や観光スポットが集まっているところです。学術集会のポスターにもイラストでご紹介しました。それを参考にして、それぞれのサイトシーイングパスを作成し、文化都市「金沢」を満喫していただけたでしょうか？

パスは医療の質確保に有用なツールです。EBMで標準化・効率化した部分に少しでもNBMを加えることで、患者さんにやさしい、満足度の高い医療を実践しましょう。

in 石川

## 第17回日本クリニカルパス学会 学術集会賞 最優秀賞を受賞して

2016.11.25～26  
神戸大学医学部附属病院  
高岡 裕

表彰式では、優秀賞を最優秀賞の受賞と思いきや、「良い研究だなあ」などと考えておりました。その直後に自分の名前を耳にした訳ですが、「何が起こった？」と驚き頭の中は真っ白でした。受賞後のスピーチでは、『患者用パスの色覚異常への配慮の調査と作成ガイドラインの提案』の研究で伝えなかった「視機能異常の患者さんは少なくないので、患者パスを作る時にほんの少しの配慮をお願いします。」と、話すのが精一杯でした。過去の受賞者の皆様と同様に予想外の受賞だったのでした。その後、懇親会場では副島理事長や久保大会長から引き続き取り組むようにと激励を賜り、光栄であるとともに責任の重さを感じています。

さて、私は大学院生の頃は東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センターで、クローン技術を利用し疾患モデル動物作出と病態解明に取り組んでいました。この研究では、導入遺伝子の設計と組み換え、雌マウスへの二種類のホルモン注射を厳密なタイミングで実施し、メーティング翌朝の採卵（または未受精卵の体外受精）、前核期胚の雄性前核への遺伝子注入、ファウンダー卵管への遺伝子操作卵子の移植、そして出産後の仔の遺伝子検査、系統樹立と飼育計画、これらには試薬、注射薬、手術処置などの準備と実施、ケージコントロール（飼育場所や餌の確保）などの準備が必要です。タイミングや薬剤量、手術処置、出産・新生仔の授乳などを厳密にスケジューリングし管理できないと死んでしまいます。これを一人で実施するのですが、毎日新しい患者が入院し毎日手術するのと同じように複雑にして煩雑で、しかも一人で16系統1,000匹くらいを飼育管理し、分析に供していました。すべての管理には研究計画書（チャート）を作り工程管理に使用しましたが、これはクリニカルパスとほとんど同じで、アウトカムもバリエーションも設定していました。この経験がクリニカルパスの意義や考え方の理解につながったのは幸いでした。また、幼少期から時刻表愛好家だったので、元来パス好きなのかもしれません（勝尾先生と同じ趣味です← CP NEWS の情報）。

今回の研究テーマは、物理学者の父が手術入院した際に「高齢者には、患者パスは読みにくい」という訴えから着想して予算申請し、科研費を配分いただいて遂行したものです。今回の受賞は、当院の看護部や診療科の先生たち、パスへのきっかけを与えていただいた方々とのご縁の結果です。ご縁といえば、昨年度と今年度の当院のパス大会に国保旭中央病院の松永先生にお越しいただきました。これ



は、2013年に本学会に入会しその年に発表した演題と翌年の部下の演題が優秀賞となり、心の障壁が低くなり積極的な依頼が可能になったからです。今後も、皆様に本院のパス大会へのご来演をお願いすることがあると思います。その際には指導を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、私が日本クリニカルパス学会に入会するきっかけをいただいた、松尾聡子さんのご冥福をお祈りいたします。

### 【日本クリニカルパス学会 第17回学術集会賞 受賞者】

#### 最優秀賞：

1-A-07 「患者用パスの色覚異常への配慮の調査と作成ガイドラインの提案」

神戸大学医学部附属病院 高岡 裕

#### 優秀賞：

1-A-01 「ワールドカフェによる研修会の試み」

岩手県立病院パス推進委員会 大津 修

1-A-05 「脳出血保存的治療パスの適応基準の適正化と設定日数の見直し」

済生会熊本病院 岩下明日香

#### ノミネート賞：

1-A-02 「採用薬剤の変更に伴うパス情報の照会及び変更作業の省力化の取り組み」

兵庫医科大学病院 本田耕一郎

1-A-03 「糖尿病教育入院パス導入による効果－フットケアの視点から－」

横浜労災病院 須藤 裕幸

1-A-04 「DPC データ分析結果を活用した大腿骨近位部骨折パスの作成」

総合病院国保旭中央病院 岩井 淳一

1-A-06 「臨床指標と在院日数によるバリエーション分析」

福井赤十字病院 吉田 博之

1-A-08 「疾病管理をめざした

脳卒中地域連携 IT パスにおける再発因子分析」

鶴岡市立荘内病院 丸谷 宏

### 【平成28年度日本クリニカルパス学会論文奨励賞】

研究報告：第17巻第2号掲載（平成24年度学術研究助成）

「誤嚥性肺炎患者の重症度判定指標と

退院時転帰との関係についての探索的調査」

医療法人横浜柏堤会本部 宮崎美子

研究報告：第18巻第1号掲載

「肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症パスの改訂とその評価」

福井県立病院 丹羽 智

※ご所属は論文掲載時のものです。



in 青森

## 第3回クリニカルパス エキスパートミーティング報告

2016.9.22～24

済生会熊本病院 医療支援部  
松本晃太郎

2016年9月22～24日までの3日間、青森県十和田市のホテル十和田荘にて第3回クリニカルパスエキスパートミーティングが行われました。参加者は27名であり、日本クリニカルパス学会の役員の先生方やパスの実務に関わっている各施設の医師、看護師、事務職と多様でありました。

今回のテーマは、「日本のクリニカルパスの将来を見据えたグランドデザイン」を作成するための徹底討論であり、講義形式ではなくグループワークによる話し合いが中心でありました。最初の2日間は、パスに関するキーワード（チーム医療、バリエーション、標準化、看護、パス教育、TQM、医療の質、電子クリニカルパス、地域連携パス）別に各グループに分かれて約2時間30分にも及ぶ討論を行い、最後に各グループでまとめた内容を発表するという形式で行われました。最終日には、各グループでまとめた内容を基にグランドデザインを一本化し、エキスパートミーティングは終了しました。

グランドデザインは、「パスを根付かせる時代からすべての患者へ質の高いパス医療を提供する時代へ」を最終目的に掲げ、それを達成するために、「用語の標準化・構造化」の推進、「他施設共同研究」の取り組み、既存の概念に捉われない「次世代電子パス」作成の取り組み、院内パスと同等の「疾病管理が行える地域連携パス」作成の取り組み、多職種が互いの専門性を有機的に発揮できる「チーム医療」の取り組みというテーマ別の目標が掲げられました。これ




らの目標を根本的に支えるために、パス学会主導でパス認定士の創出など、教育に力を入れるという段階的なグランドデザインが作成されました。

今回、私は初めての参加でした。事務職という立場であり、またパスに関する実務経験も少なく、多少不安でしたが、グループワークでは立場や経験関係なく、役員の先生方も一緒にフランクに話し合える環境でした。私は現在の仕事上、データを扱うことが多く、今回多くのグループワークで、「データの二次活用」の話が出ており、今後データの整備や二次活用という点で事務職でもクリニカルパスの発展に貢献できる可能性を再確認しました。

また、今回のような貴重な機会に若い世代が参加することは、教育の点からも非常に意義があると感じます。次回の第4回エキスパートミーティングには、若い方々もぜひ参加されてみたいかがでしょうか。





リレーエッセイ 第31回

**パスから広がった世界！**

千葉大学医学部附属病院 小林 美亜

日本クリニカルパス学会の第16回学術集会で開催されたシンポジウム「クリニカルパスとセレンディピティ」ではありませんが、セレンディピティによって引き寄せられたパスとの出会いが自分の世界を変えました。ちなみにバトンを渡して下さった伊藤淳二先生からは、連携パスだけではなく、青森の日本酒の世界を教えてください、その日以来、田酒にはまりました。新青森駅にある地酒の試飲用自動販売機を自宅に備え付けるのが夢です。

さて、話はパスにもどります。私は修士課程の学生時代、学費稼ぎと生計を立てるために派遣会社に登録し、毎日に

違う病院に派遣される夜勤ナースや産科病院の分娩室と新生児室で助産師として、バイト生活を送っていました。その当時は、どの病院に行ってもパスというものはありませんでした。一度も働いたことのない病院で、50人近い患者の申し送りを聞いて、記録だけを頼りに夜勤をするというのは本当に大変で、また自身がケアをしたことのない診療科の患者さんを担当することは「恐怖」と「不安」しかありませんでした。スマートフォンのようなものもなかったので、毎晩、ありたっけの分厚い参考書を持ち込み、夜勤をしていました。

こんなナース生活を送っていた頃、たまたま阿部俊子先生が書かれたパスの記事を読みました。もしパスがあれば、私のような働き方をするナースも働きやすくなるし、何よりも患者さんの安全を保証できるし、日本で早く広まってほしいなあ～と思っていました。そんなとき、友人が「阿部先生がバイトをしてくれる人を探しているんだけど。やる？」と、すごいタイミングで声をかけてくれました。今思うと、パスが引き寄せる吸引力は「凄い」の二文字に尽きます。

阿部先生のパワーは当時から超絶していて、また若い人たちにたくさんの学ぶ機会とチャンスを惜しみなく提供し、人を伸ばす力は凄いものでした。日本の小さな世界しか知らない、鎖国環境で育った私にとっては本当に衝撃的で、「こんなすごい人が世の中にはいるんだ。どうしたらこうなれるんだろう？」と、ただならぬ関心が次から次へと湧き上がりました。その時は、『ここには何か面白いものがあって、何か道が開けるのかもしれない』という漠然としたものでしたが、こんな学べる絶好のチャンスを逃してはいけなかったと思います。そこからは、良い意味での馬車馬生活が待っていたのですが、阿部先生の下で、パスの活用により「チーム医療が促進し患者満足度は向上するのか？」「合併症の発生率は低下するのか？」「在院日数は短縮するのか？」「原価計算のためのツールとして利用しコストマネジメントが可能になるのか」など、様々な命題を実証的に研究させていただいたことで、自分の興味や関心は、医療管理や医療経済など、どんどん広がっていきました。

また、米国に留学してパスの勉強をしたり、カレンザンダー氏の研修に参加したりする機会もいただけたことで、その当時、まだ日本では浸透していなかった医療の質保証や医療安全を学ぶきっかけにもなりました。そしてニューヨークの大学の博士課程に進学した後もいつのまにかこの世界にどっぷりつかっていました。ここでの学びと経験のすべては新鮮で、これらを日本の医療文化に適した形で展開することでどんな近未来になるんだろう、これを日本で具体化できたら面白いなあ、まったく身の丈にあっていないことばかりを考えていました。

米国留学中は、目の前で「アメリカ同時多発テロ事件」が起き、ワールドトレードセンターが崩壊、北アメリカ大停電で大学内の窓のない密室に閉じ込められ、ここで命を落とすのかと思った事件、住んでいたハーレムでは目の前で人が刺されるなど、命の危険を感じ、トラウマとなるような耐え難いことも多々ありましたが、そんな夢と希望に支えられ（パスを通じて知り合った仲間にも、留学中、たくさん支えていただき、今でも感謝しきれません）、何とか乗り越えることができました。

日本に帰国したばかりの当初は、米国で学んだ様々なことを日本で伝える機会があっても、「この人は、訳のわからないことを言っている」「そんな概念は、日本で通用しないし、そもそも役に立たない」と言われることもよくあり、撃沈の日々を送りました。ちなみに撃沈は今も続いています。

そんな中、たまたま手に取った雑誌で、「No matter how high the mountain is, I'll just keep on walking and get to the top（どんなに山が高かろうと、登り続け頂上を目指すだけ）」という言葉が目飛び込んできました。この言葉がストーンと自分の心の中に落ち、あきらめなければ今とは違う景色が見えるのかもしれないと思直し、前に進み続けることにしました。

現在は、これまでの千葉大学医学部附属病院のパスの運用を見直し、医療の質改善のためのツールとしてPDCAサイクルをまわす仕組みを整備し運用することに着手し始めました。パスの作成・運用ガイドラインを作成し、念願だったパリアンス収集と分析を開始します。課題は山積していますが、TQM活動の足がかりとして、パスを推進する仲間と一緒に、パス文化が根付く病院を目指したいと思います。

続いてのバトンは、私の趣味のお遍路の区切り打ちにお付き合いいただいている、四国がんセンターのパス認定士の砂野由紀さんにお渡します。



小林 美亜先生（中央後方）



## 第18回 日本クリニカルパス学会学術集会

会 期：平成29年12月1日（金）・2日（土）

会 場：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）  
（大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51）

会 長：山中 英治  
（社会医療法人若弘会 若草第一病院 院長）

メインテーマ：『思いやりクリニカルパス  
—明るく優しく健やかに—』

プログラム：

理事長講演、会長講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、  
パネルディスカッション、教育セミナー、論文の書き方  
セミナー、一般演題、クリニカルパス展示 など

参加登録募集期間：

平成29年6月14日（水）～11月1日（水）（予定）

演題募集期間：

平成29年6月14日（水）～7月26日（水）

ホームページ：<http://www.congre.co.jp/jscp2017/>



### 平成29年度 学術研究助成（個人研究及び奨励研究）

【奨励研究テーマ】 BOM 関連の研究（ベンチマーキング・活用・研究など）

【学術研究助成 応募期間】 平成29年4月3日（月）～5月31日（水）

### 平成29年度 優秀英語論文賞（JSCP Best Paper Award）

【応募資格】 日本クリニカルパス学会個人会員（申請時に個人会員であれば可）

【学術研究助成 応募期間】 平成29年4月3日（月）～5月31日（水）

### 2017年度 クリニカルパス教育セミナー

『クリニカルパスを役立てよう！広めよう！～実践ノウハウ～2017』

【東京会場】 2017年7月15日（土） 日経ホール（東京都千代田区大手町1-3-7日経ビル）

【大阪会場】 2017年8月5日（土） 大阪国際交流センター大ホール（大阪府大阪市天王寺区上本町8-2-6）

【山形会場】 2017年9月9日（土） 山形テルサ アプローチ（山形県山形市双葉町1-2-3）

※学術助成研究・優秀英語論文賞・教育セミナーの詳細は学会ホームページをご覧ください。